

岡崎市議会議員

鈴木 ひでき



「いつまでも 安全安心 いきいきと」した 岡崎のまちづくり

発行 鈴木ひでき 後援会 連絡先 〒445-8502 西尾市下羽角町住崎1 TEL 0563-55-1167 FAX 0563-55-1909

まちづくり
3政策

すこやかな
発展を続ける

おだやかな
暮らしを守る

のびやかな
人生を歩める

一般質問に登壇し市政に提言

竜美丘会館について

<質問した経緯>

本市も人口減少・少子高齢化が進む環境にあり、人口減少により市税などの財源の減少が推測される。また、その財源の内情も、社会保障費の増加に加え、人件費や資材費などの物価高騰により、公の施設の維持管理費も増加し、限られた財源の中で市民サービスの充実に向けた予算が圧縮される財政状況にある。

そこで、公共施設等総合計画に基づき、**維持管理費などの固定費抑止を図る**べく、「竜美丘会館の休止」を通じ、**過去の文化なども継承し新たな視点で公の施設の縮小を効率的に進め**、都市再生に向けた提言をするため。

■まちづくりに関して日本の社会経済環境の変化

日本の人口は、2008年（12,808万人）をピークに人口減少となる。社会経済環境の視点では、1965～1985年人口増加を前提とした量的に拡大を進めた「成長社会」から、1986～2008年人口減少に入り量的に余剰となる「停滞社会」、2009年～精神的な豊かさや生活の質を重視する「成熟社会」へ移行する中で、都市政策の転換が求められている状況にある。
(中核市サミットの基調講話より)

成熟社会の共感
都市再生ビジョン
(国土交通省HP)



■利用停止理由について

1980年開館する文化活動拠点。築45年が経過し施設全体で老朽化が進む状況にあり、**安全利用を考慮し、2026年12月末で利用停止**とすることとなった。**大規模改修**した場合の費用は、**総額約30億円以上**と試算。内訳は、ホール棟：約7億円、本館棟：約13億円に建設資材や人件費等の高騰を考慮したもの。

■今後の在り方について

議員のご指摘の通り、本市では緩やかな人口減少となり、そのことにより、市の歳入の減収に繋がり、公共施設の維持管理の支出が他の市民サービスの低下に繋がらねないと、課題として認識している。議員から紹介していただいた事例を参考に、竜美丘会館の今後として、大規模改修か廃止かといった検討の中に、**施設をどうするかという観点だけではなく、まちづくりの観点も含める**ことで、よりよい検討ができると気づかされました。今後、**竜美丘会館の大規模改修を断念する**場合であっても、**本市にとってプラスとして捉え、今あるサービスを最大限継承しつつ、施設の強みを拡大し、地域発イノベーションを創出する仕組みを検討**して参りたいと思います。その上で、**民間の力に期待するだけでなく、必要な支援や、行政だからこそできるところに積極的に**関与し、本市のシビックプライドの醸成やウェルビーイングの向上など、本市の魅力向上、付加価値を生み出していきたく考えます。

行政が積極的に関わり、成り立ちの継承や利用者も喜ばれる付加価値を考慮した民間活用の結果に期待

引き続き「岡崎に住んで 本当に良かった」と思って頂けるように取組みます！！

横断歩道の設置について

改修前(2024.7)

この場所は、600mの区間(北:200m、南:400m)に横断歩道がなく、お年寄りや子ども達が安全に渡る際に、遠回りをしなければいけない状況にあった。



改修後(2025.9)

山口県議と地元の仲間議員と連携し、地元の理解を得ながら警察と調整し、横断歩道の設置が実現した。その後、多くの世代の方が安全に渡れる環境が整いました。



仲間の県議・地元議員との連携で困りごとを解決！！

トピックス

救急医療体制運営について

【概要】補正額：5,604万円

1次救急医療に関する患者の受診減少に伴う、岡崎市医師会が運営する夜間急病診療所運営事業への補助追加。

■ 1次救急医療の現状

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の流行並びに、救急医療体制変動(2次の大学系病院開院)の影響で、一次救急医療に関する患者の受診動向が大きく変わり、患者数が減少したことで診療報酬の減収につながり、運営が困難と想定。令和6年度大学病院夜間外来受診者数は1万人近くにも及ぶ。

本市の救急医療体制



■ 今後の取組

将来にわたり持続可能な救急医療体制の構築は、西三河南部東医療圏の一つの課題。解決に向け、3つの視点を重視し医師会等と協議を進める。①幸田町も含む西三河南部東医療圏全体の救急医療体制を持続可能とする形、②医師等の働き方改革や負担軽減の体制、③「1次救急医療機関の市営化」「診療拠点の定点化」の導入拡大。

二の大学系2次救急病院の存在を活かした取組に期待

部活動「地域移行」から「地域展開」について

■ 国の変化に対する本市の考え

令和7年5月、スポーツ庁と文化庁は、名称を「地域移行」から「地域展開」に変更。さらに同年10月、学校部活動の教育的意義を継承・発展させ、すべての生徒に幅広い活動機会を保障することを目的とし、地域クラブの認定制度を策定。認定要件は、教育的意義の継承が重視され、競技性や成果のみに偏重しないといった理念があることと示され、本市の取組は認定要件を満たすもの。



部活動最終まとめ
←(概要)

(本文)⇒
(スポーツ庁HP)



中学校地域ブロック部活動3段階プランの取組に大いに期待

阿知和地区工業団地造成事業について

契約金額の増額理由は、地下岩盤層の出現による新たな工事費(26億9,517万円)などの追加。当初よりの増額は、53億358万円で、契約金額は181億3,288万円となる。

将来投資事業のため更なる透明性を求め賛成

編集後記

過去の市政レポートについては、下記ドメインまたはQRコードを読みこんでいただき内容のご確認をお願い致します。

<ホームページのドメイン>

http://www.giin-dnwu.com/suzuki_hideki/



「鈴木 ひでき」検索でも見えます！！

<QRコード>



<過去の掲載内容>

- ・過去の一般質問の想い
- ・本市の財政状況
- ・年度毎の主な施策

市政の
話題満載！

